

Lesson 5 住宅に関する不満は「寒さ」が第1位。

2年以内に住宅の建設を考えているユーザーに「改善したい住まいの悩み」をアンケート調査した結果が報告されています[1]。

温暖地と言われる地域を含め、住まいの悩みの第1位は「寒さ」。

その他にも「結露」「暑さ」「冷暖房費」など、断熱性能の低さに起因する不満が圧倒的な多数を占める結果となっています。北海道で高断熱・高気密化住宅の啓蒙、普及活動が始まってから約40年。冬季死亡率の抑制に大きく貢献してきたこの活動も、全国レベルではまだまだ道半ばなのかもしれません。

全国の住宅ストック数は約6,000万戸とも言われていますが、現在の省エネルギー基準に合致している住宅は5%程度。39%の住宅では、断熱材が全く施工されていないとの調査結果もあります。断熱化の目的を省エネルギーといった経済的な指標だけで評価しては、普及も促進できないのかもしれません。

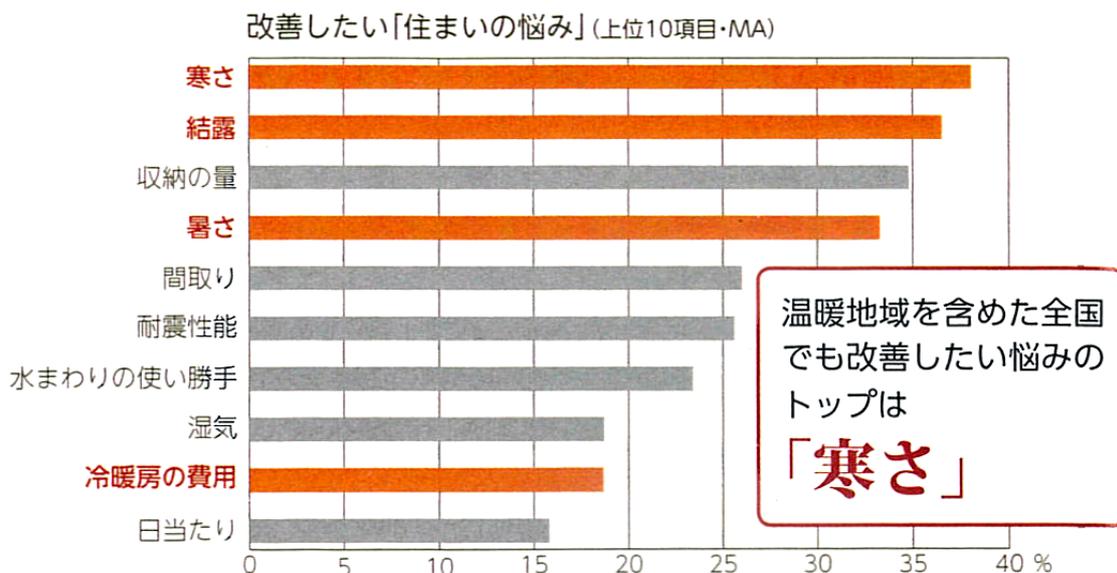
設備機器の交換や設置は「見える化」がしやすく、効果を判断しやすいという利点があります。一方で、高断熱化や断熱リフォームはなかなか効果が見えにくいものの、生活の質の向上、とりわけ病気要因の排除という意味で、効果は顕著です。もっと皆さんに知ってもらう必要があります。

厚生労働省の統計によれば、毎年18,000人もの尊い命が住宅内のヒートショックによって失われています。交通事故が原因の死者数を大きく上回りますが、新聞などで報道されることが少ないせいか、この事実はあまり認識されていないようです。特に、居間とトイレ、脱衣室、浴室との温度差は脳血管疾患や心疾患との因果関係が指摘されており、早急な対策が必要かと思えます。

「ZEH」の普及に向け断熱性能の向上が議論されています。エネルギー需給と安全保障。いずれもマクロ的視点では大切な課題ですが、最も重要なのは国民の生活の向上と健康維持にあることは言うまでもありません。コタツに縛られ、

運動不足になりがちな冬の生活。より活動的な生活で、健康・長寿を祝うことがごく普通になるまで、住宅の性能向上活動が遅滞してはいけないのです。

「断熱」ファーストな家づくりが、健康生活の原点なのですから。



[1] 日経ホームビルダー (2014.4)より

室内気候研究所 主席研究員
工学博士 石戸谷 裕二
■公式 HP : <http://iwall.jp>